

これ
大好物なの
です～～。



光受寺通信

H.23・8月1日
発行者 光受寺

この世における自然を含め、人間が造り出した全ての事物には表があり、裏の表情があると思います。(陰と陽と言っても良いのですが)そのいずれもが、そのものの真実の姿であり、条件(縁)によって表情を変えているだけなのです。

表とは何か。裏とは何かを考えてみると、表とは人間にとって「都合のよいこと」と仮定すれば、「裏とは都合の悪いこと」になるのでしょうか。いずれにせよ、いずれもがうごかし難い、そのものの真実の姿なのです。

私たちは表が出れば感謝の気持ちともなりますが、裏が出れば憎しみや悲しみ、あるいは苦しみとなります。そういうことからすれば、今回の原発の問題は、まさに裏の姿が最も顕著な形として表れてきたものなのでしょう。また中国の高速列車事故も然りだと思ふのです。

私たちはともすると利便さや、利潤のみを追い求め、それを幸せだと感じ生きているのですが、縁によってはその裏の姿を見ることとなるのです。

いずれも人間の愚かさが、また一つ際立った悲しい出来事でした。携帯電話やインターネットも、とても便利なのですが、表裏一体であることを、よくよく認知しておかなければならないと思ふのです。

彼女が作っ
てくれた
ケーキ



64歳の誕生日

わたくし事で恐縮ですが、七月二十六日でもう六十四歳になりました。
きんさん、ぎんさんではありませんが、うれしいような悲しいような気持ちです。
先日、御門徒の外孫さんから、手作りのケーキと新聞の原稿が届きました。高校生の彼女は屈託のない、とても元気で明るい子で、しかもどこか古風なところのある子です。おじいちゃん曰く、孫は線香のにおいが好きだと言っています。…ウーン納得。
私にとり、とてもうれしい一日の出来事でした。

ついでに



私は人からは明るい性格だと言われ、いよもよこのですが、「じゃあでもさっしう悩んだりします。時々お経を読んだり、聴いたり、仏像を見たりする。今まで悩んでいたことが、ほけに感じられ、ポジティブな考えがでる。そのうちに、気持ちが晴れます。

仏教は想像以上に不思議で、すごい力があるように思えます。皆さんも悩んでいる時などは、ぜひ仏教に触れてみる機会を、ぜひぜひはたして欲しいかな。

人生の節目談義

阿弥陀さまの差し入れ

ORさん

七月下旬。暑い曇り空のある日、保育園のさつまいも畑で二回目の草取りをしていました。背丈が三、四十センチに伸び、根がしっかり張っていました。汗が目に入り、しかしかして大変でした。一時間半ほど過ぎた時、御苦勞さまと言って見知らぬ一人の男の人が、手にもぎたこの赤いピンポン玉大のトマトを持って近づき、「これはジューズ用のトマトです」と言ってお私に渡してくれました。
口が渇き、喉がからからだったので早速に頂きました。みずみずしく大変おいしいものでした。私にはその男の人の後ろ姿が、阿弥陀さまのように思えました。
毎日朝夕仏壇のお給仕をさせていただいているので、阿弥陀さまが暑いのに御苦勞さんと言って、人間の姿に変え差し入れをして下さったような気がし、何か目に見えぬお守りがあるのかなと思いました。
午後一時ごろ家に帰り、早速仏壇の前で手を合わせお礼を申しあげました。

待望のインターネットが

つながりました。

皆様との心の交流や、情報交換ができたらと思います。

ホームページも九月には出来上がると思います。開かれた寺を「この願いの」の試みとして挑戦してみたいと思います。

具体的にはまだ十分な計画や方法についてはまだとまどいはないのですが、今後多くの参考になるようなお寺のホームページを見ながら完成していきたいと思っております。

ホームページ開設は9月
メールアドレス
shibama.kunimori@grape.plala.or.jp

光受寺のみならず、真宗寺院のあり方を問うていく人生を、私の残りの人生の課題として取り組んでいきたいと思えます。「意見」感想お送りください。

お盆を迎えるにあたって

お盆になると、帰省をして、盆踊りや花火に、そして夜店が出たりしてお祭りの要素が強い行事が多くなります。

お墓参りも現在では夏の恒例行事、風物詩のようにもなっています。

しかし真宗のお盆は、身近な人の死や、あるいは遠い先祖に思いを馳せることが縁となつて、世間に流され続け生きていく私に気づかされていく、大切な時なのです。

家族がお仏事を縁として集まり、仏さまの呼びかけの声に静かに耳を傾けてみることは、静かによつが。

ご先祖が、私にとって諸仏となつて行くのかよつが、お盆の迎え方は一人ひとりの間異なる姿勢にかかっているのではなごつが。



階段を上り詰めること書院で内部の状況)

客殿入口階段(本堂と庫裏の間)

工事進行状況 その3



基礎工事完了間近の状況

毎日豊橋から、6人の大工さんが来てくれています。

皆さん暑い中黙々と作業をされ、とても安心感のある大工さんばかりです。棟梁はかなりご高齢ですが、とてもお元気で、熱田神宮のお抱えの宮大工さんだそうです。作業の速さと正確さは流石です。足場はガチガチで感じます。そろそろ床が張られます。

ここは寺院法中方の出入り口になります。階段になる型枠にコンクリートを流し込んであります。手すりも付ける予定です。これでいったん庫裏の方へ入り、本堂へという不便さもなくなり、お斎場を通っていただくこともなくなりました。また書院も幾分広くなり組内の法中は十分入れる広さとなりました。